

創作子どもSF全集 2

すな
砂のあした

小沢 正・著／井上洋介・絵



お ざわ ただし
小 沢 正
砂のあした

国土社 1974

110P. 21cm×19cm (創作子どもSF全集 2)

基本カード記載例

© 創作子どもSF全集 2

砂のあした

初版発行 一九六九年二月二十五日

三版発行 一九七四年三月二十日

《検印廃止》

著 者 小沢 正おざわ ただし

発行者 長宗泰造

印刷所 株式会社厚徳社

発行所 株式会社国土社

東京都文京区目白台一―一七―六

電話 (九四三) 三七二二(代)

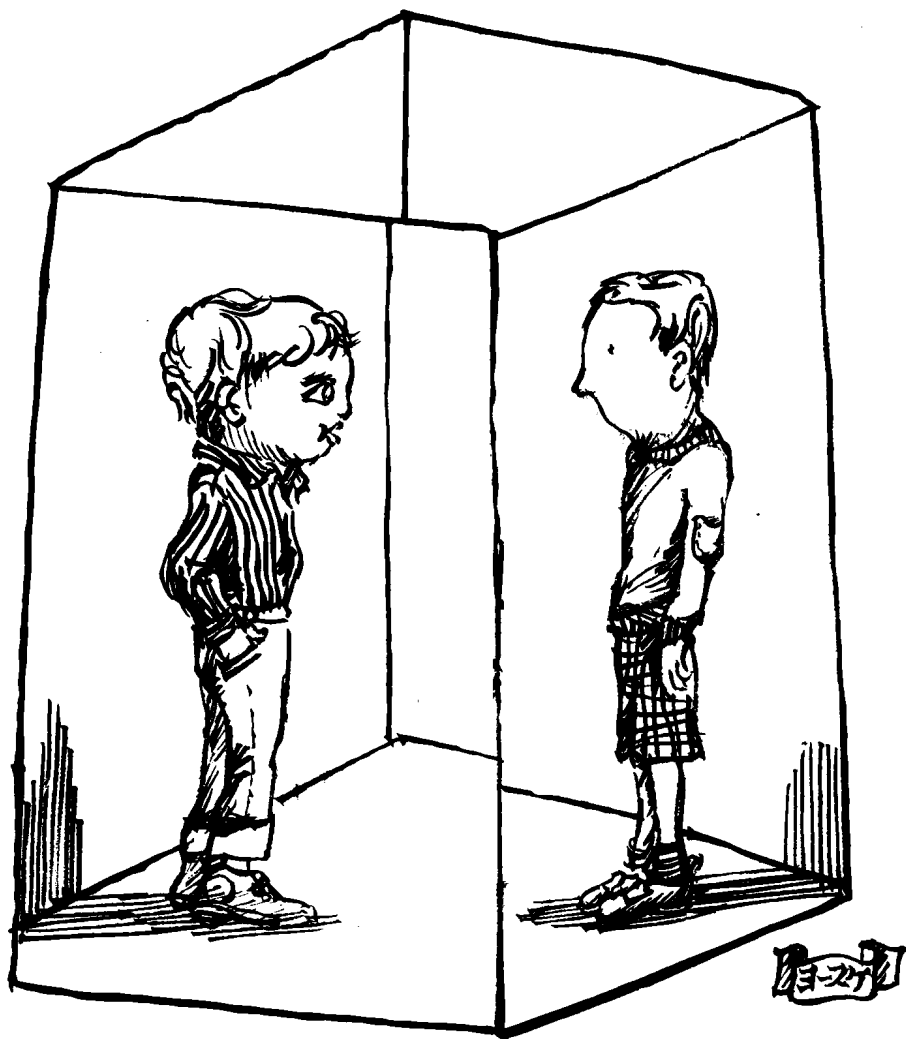
振替 東京九〇六三一

乱丁・落丁の本はおとりかえます

創作子どもSF全集 2

砂のあした

小沢 正・著／井上洋介・絵





もくじ

ネコのべんじよ……………	6
トーストにも牛乳 ぎゅうにゅう にも……………	14
ふえたり消えたり……………	26
でつかいため息 いき ……………	36
足音 あしおと がおりてくる……………	46
スナダくんは宇宙人 うちゅうじん ……………	56
五年さきの新聞 しんぶん ……………	66



日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

そうてい・井上洋介
いのうえようすけ

あとがき

かべのむこうは……	76
一万年 まんねん さきの地球 ちきゅう から……	84
13チャンネルの特別番組 とくべつばんぐみ ……	96

■著者紹介■

文 小沢 正

一九三七年、東京にうまれる。

一九六二年、早稲田大学教育学部国文科を卒業し、チャイルド本社に入社。のち作家生活に入り、児童文学の創作にたずさわる。

おもな著書に、『ほしからきたうま』『目をさませトラゴロウ』はらべこのオニごっこ』などがある。

日本児童文学者協会会員

現住所 東京都北区上十条

絵 井上 洋介

一九三二年、東京にうまれる。

一九五二年、武蔵野美術大学西洋画科を卒業。イラストレーター。

おもな子どものための作品に、『時間よとまれ』はらべこのオニごっこ』『ちよんまげ子守唄』うすらでかぶつ』などがある。

東京イラストレーターズクラブ

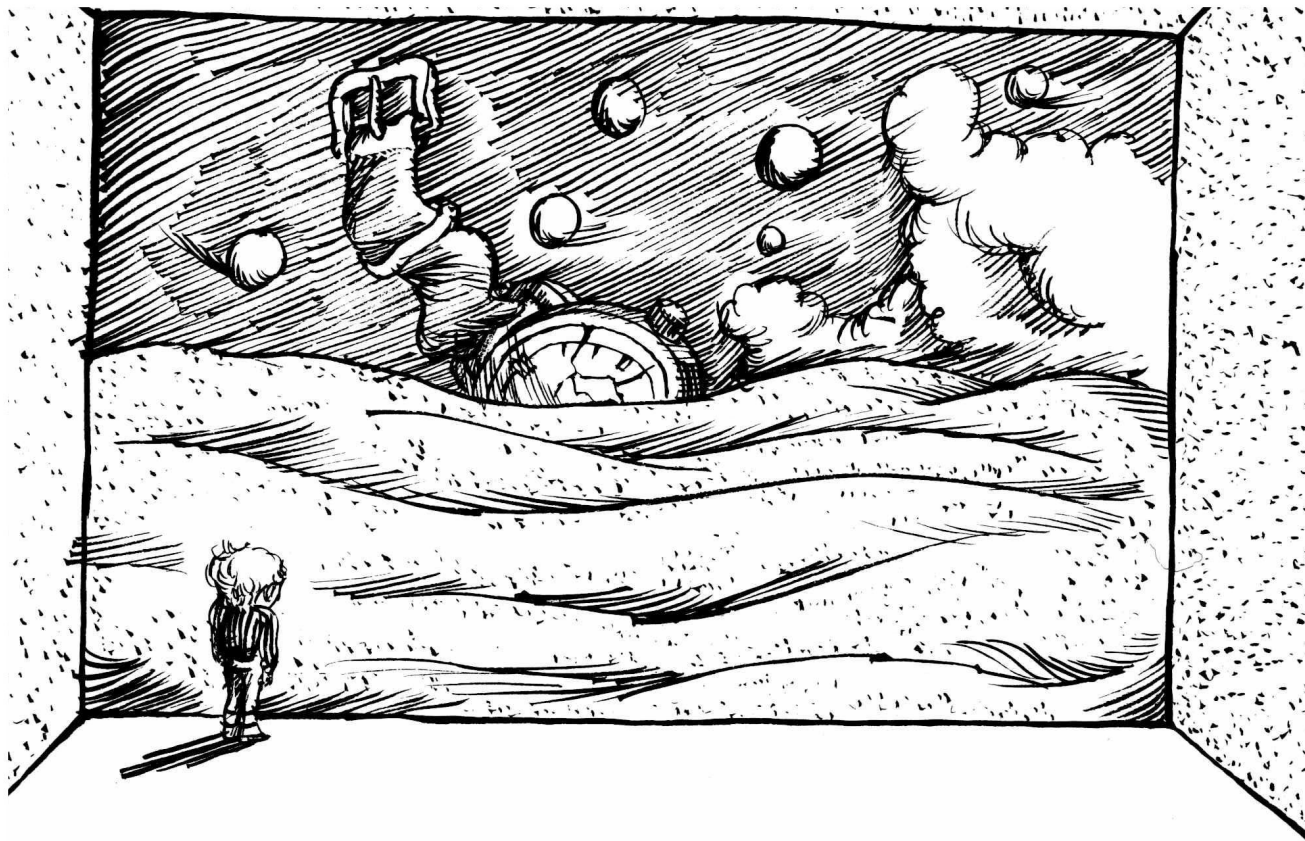
所属、漫画集団所属。

現住所 千葉県市川市真間

五の四の一四

一の三の六〇





きみたちも、小さいとき、砂場すなばで遊あそんだことがあるはずだ。いまだって、遊あそんでいるかもしれない。でも、砂すなは、砂場すなばにだけあるものじゃない。道路どうろの上にもちらばってるし、家のなかにもおちている。

人間が死しにたえたあと、人間にかわって地球ちきゅうをおさめるのはアリだという人がある。ネズミだという人もいる。でも、もしかしたら、それは砂すなかもしれない。そう、もしかすると、あしたは、砂すなのあしただ。

ネコのべんじよ

ミャーとなき声がした。たんすのそばにおいてあるボール箱だ。チビたち、目をさましたな。

箱をのぞきこむと、子ネコたちは、もこもこじゃれあっていた。ちやいろい毛のレオ、あおい目のタラ。

レオが、タラをふみだいにして、箱のふちに足をかけた。ばりばり、がりがり、大さわぎしながら、レオは箱の外へとびおりた。そのレオの上へ、どたん

とタラがころがりおちた。

親ネコのベラが、ニャアニャアなきながら、子ネコたちのところへとんできた。レオとタラは、びっくりしたようにへやのなかを見まわしている。

「見てごらん、おかあさん。子ネコたち、じぶんで箱からでたよ」

「ほんとだ」



おかあさんも、アイロンかけをしながらニコツとした。

おかあさんは、ネコが大好きだ。ひまさえあれば、ベラをからかったり、ノミをとってやったりしている。おとうさんもいつか、

「おまえのようなのをネコキチっていうんだなあ」

なんて、あきれたような感心かんしんしたような顔かおをしていた。

近所きんじよのスギヤマさんとミタムラさんの家でも、ネコをかいたがっているらしい。おとうさんは、レオとタラをあげてしまえといったけど、おかあさんはしようにしなかった。二ひきとも、うちでかうことにきめてしまったんだ。

「でも、歩きだすようになるとたいへん。うっかりしていると、たたみやざぶとんの上にオシッコされるからね。どっかから、砂すなをとってこなけりやあ」

「砂？」

「そう、子ネコたちにおべんじよつくってやるの」

この近くちかで砂すなのあるところといえば、公園こうえんの砂場すなばぐらいだ。夕ごはんがすんでから、ぼくたちは公園へでかけた。

おかあさんが、かいものかごのなかから、小さなシャベルとポリエチレンの

ふくろをだした。ものすごくでっかいふくろだ。むりすれば、砂場の砂のはんぶんぐらいはつめこめるんじゃないかな。ざくっざくっと、おかあさんはふくろに砂をいれはじめた。

ベンチにすわってゐる人が、へんな顔でこっちを見ている。ぼくは、ちょっと心配になった。

「おかあさん、公園の砂をもつてったりして、おこられない？」

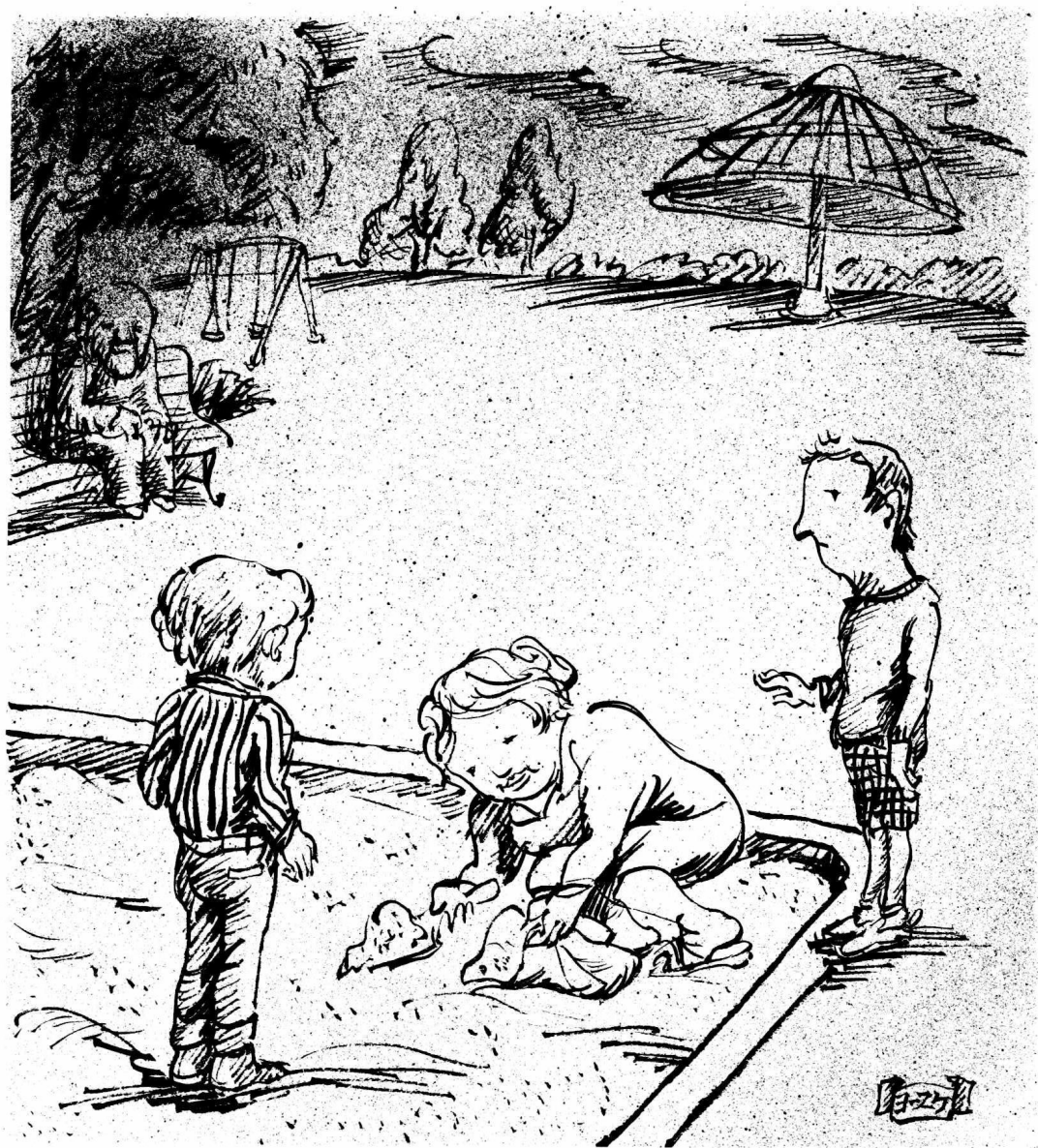
「だいじょうぶよ、ほんのちよっぴりですもん」

やっと、ふくろがいっぱいになった。おかあさんは、もうひとつ、ポリエチレンのふくろをだした。

「おかあさん、まだとるの？」

「もうちよっと。なんどもとりにくるの、めんどろでしょ。ネコはきれいずきだから、毎日、砂をとりかえてやらないとね」

やっとのことで、もうひとつのふくろもいっぱいになった。おかあさんは、かいものかごから、でっかいふろしきをだして、ふたつのふくろをつつみはじめた。



「おばさん」

いきなり、うしろで声がした。ドキッとしてふりかえると、見たことのないやつが、こまったような顔でふろしきのつつみを見つめていた。

「公園のものをよそへもってってはいけないんですけど」

「ごめんなさい。でもほんのちょっぴり、いただいでいくだけなの。ほら、こんなにちょっぴり……」

おかあさんは、つつみをひいともちあげてみせようとした。でも、だめだった。重すぎて、かたほうの手だけじゃもちあがらないんだ。おかあさんは、てれたようにフツと笑った。見たことのないやつも、ニコツとした。

ちえっ、おせっかいこぞうめ。ぼくはちよっとしゃくにさわって、そいつをにらみつけた。

「公園のものをもってってはいけないなんて、そんなこと、どこに書いてあるよ」

「たてふだにちゃんと書いてあるさ」
ぼくは、ちよっとつまった。

たしかに、公園こうえんのなかには、いくつもたてふだが立っていた。でも、たてふだになにが書いてあるのか、まだいちども読んだことがなかったんだ。だけど、かまうもんか、そんなたてふだぐらい。

「いこうよ、おかあさん」

両手りょうてでぐっとつつみをもちあげると、足がふらふらとした。ものすごく重い。おせっかいこぞうが、クスッと笑わらった。

「はこぶの、てつだったげようか」

「へいきだい、これっぽっち」

ぼくは、よろよろしながら歩きだした。入口のところであふりかえると、おせっかいこぞうは、まだ砂場すなばのふちに立って、ぼくたちを見送みおくっていた。

歩いてゐるうちに、砂すなのつつみは、ますます重おもくなってきた。とちゆうでなんども、おかあさんがかわってくれようとした。でも、かわってもらうのはなんだかしやくだ。ぼくはとうとう、うちまでがんばりとおした。

おかげて息いきはハアハア、胸むねはドキドキ、顔かおなんかあせてびっしょりだ。

「ごくろうさま、のどがかわいたでしょ」

おかあさんが、つめたいジュースをつくってくれた。

ぼくがジュースをのんでいるあいだに、おかあさんはとってきた砂^{すな}を木の箱^{はこ}にいれて、ろうかのすみへおいた。

「さ、これでよし。おネコさんたち、いらっしやい」

おかあさんは、レオとタラをつれてきて、砂箱^{すなばこ}のなかへ入れた。子ネコたちは、ふしぎそうに砂^{すな}のにおいをかぎはじめた。おかあさんは、トントンと二ひきの頭^{あたま}をたたいた。

「これからね、ここでオシッコやウンチをするのよ。わかった？」

ミャー。かわいい声をだして、レオが、おしりをベタンと砂^{すな}にくつつけた。しばらくしておしりをあげると、砂^{すな}が黒くぬれている。やった、やった。ぼくは思わず、パチンと手をうった。おかあさんも、おかしそうに笑^{わら}いだした。

「やれやれ、ネコキチどもが、ふたりそろって大さわぎだ」

おとうさんも、テレビを見ながらニヤニヤ笑^{わら}っている。

タラが、オシッコをするかわりに、箱^{はこ}のなかであばれはじめた。砂^{すな}で遊ぶ^{あそ}のが氣にいったらしい。でも、足やおなかですっかり砂^{すな}だらけだ。つかまえて砂^{すな}



をはらってやろうとしたとき、テレビのニュースがはじまって、アナウンサーさんの声が耳にとびこんできた。

“水素爆弾^{すいそばくだん}をつんだジェット機^きが、サハラ砂漠^{さばく}にいました。……”

トーストにも牛乳ぎゅうにゅうにも



あれっと思ってテレビを見ると、地図ちずがうつっていた。しるしのついているところが、ジェット機きのつらくしたところらしい。

地図ちずが消えて、アナウンサーさんがうつった。

“このつらく事故じこは、十日まえの五月十三日におこったものですが、きようはじめて、発表はつぴょうされました。なお、ばくはつにはいたりませんが、つらくと同時に水爆すいばくの装置そうちがこれ、つらく地点ちてんの一带いったいは、強い放射能ほうしやのうの影響えいきやうをうけたようです。……”

「いやあねえ」

あんまりいやでもなさそうな声で、おかあさんがいった。

「やだねえ」

おとうさんも、うわーんとあくびをしながらいった。でも、サハラ砂漠さばくって

